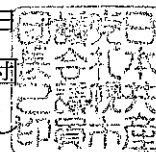


札幌市長 秋元克広 様

2018年11月21日
日本共産党札幌市議会議員団
団長 村上 ひとし



「福祉灯油」「あったか応援資金」で低所得世帯の支援を

北海道の厳しい冬を控え、生活に欠かせない灯油やガソリン価格の高騰が止まりません。道内の灯油の配達価格は1リットル換算で103円弱と前年同期に比べて3割近く高くなっており、市民の暮らしを圧迫しています。とりわけ、高齢者世帯や障がい者世帯、ひとり親世帯など、所得の少ない世帯にとって極めて深刻な打撃となっています。

貧困と格差が広がる現在、とくに所得が低く、弱い立場にある市民に対しきめ細かく目を配り、その暮らしを支えるための手立てを講じることは自治体の重要な役割だと考えます。

北海道胆振東部地震が発生してから初めての冬を迎えます。甚大な被害に見舞われ転居を余儀なくされたり、家財に被害をうけた低所得世帯も少なくありません。被災による出費を迫られ、さらに灯油などの価格高騰が低所得世帯の厳しい暮らしに追い打ちをかけています。

この間、道内の多くの市町村で「福祉灯油」が実施され、昨年度は全道179自治体の半数を超える96自治体が実施しました。また、本市でも2007年から2008年にかけて、高齢世帯や障がい者などの非課税世帯を対象に限度額5万円で資金を貸し付ける「あったか応援資金」を実施し、8,981人が支援をうけ喜ばれました。

冬の厳しい寒さがつづく北海道で、暖房は生きるうえで欠くことができず、まさに命にかかわる問題です。そのために、以下の支援策を実施するよう求めます。

記

1. 高齢者世帯や障がい者世帯、ひとり親世帯などの低所得世帯及び生活保護世帯に「福祉灯油」を実施すること
2. 住民税非課税など低所得世帯に灯油代などの資金を貸し付ける「あったか応援資金」を実施すること